

家計貯蓄率の低下要因分析～保険料および住宅ローン～

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学社会科学研究所 公開日: 2013-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中西, 貢 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/15125

家計貯蓄率の低下要因分析～保険料および住宅ローン～

中 西 貢

90年代後半～今日まで、SNA ベースでの日本の家計貯蓄率は著しく低下した。他方、「家計調査」を見る限り、勤労者世帯に限ってみるならば、貯蓄率の低下は見られない。両者の数値上のギャップに対しては、帰属家賃の問題が従来から指摘されている。また、高齢化の進展との関係で、分布統計上の問題が注目を集めている。これらの指摘はそれ自身としては正しいのであるが、それ以外の要因として、保険料と住宅ローンに関する、SNA と「家計調査」での扱いと差が考えられる。

以上のような問題関心に基づき、生命保険を中心とした保険における、保険料、純保険料、正味保険料および保険契約者に帰属する財産所得（契約時の予定利率に基づく帰属分配）の関係について、最大手である日本生命およびデータ管理を行っている日本インシュアリングサービスへの聞き取りとデータ収集をおこなった。

家計における貯蓄の変化は、分析が SNA データに限定される場合には、ストック・ベースである「支払準備金」ベースで捕らえることも可能であるが、家計の行動分析においては、家計資産として計上されている準備金のうち、金融資産の価格変動を除去する必要があり、フローベース

からの接近が必要との認識を得た。